

・荒井塾長あいさつ

「韓国大統領の大きな心に感謝します」



5月7日岸田総理が韓国を訪問し、ユン大統領(62)と会談された。私が想定していたのは5月19日に始まるG7広島サミットの後だった。私は3月にユン大統領が訪日されてから、2ヶ月で訪韓された岸田総理の決断は適切だったと思う。



ユン大統領は日韓関係改善に向けて大きな決断を下した。長い間悪化していた日韓関係が改善へ向けて回り始めた。韓国側には日本へ長い間恨みがあった。

その大きな障害が徴用工問題だった。この問題は68年前の日韓基本条約で解決済みだったが韓国の前の大統領が保身のために当時の徴用工を探し出して、この問題を日韓関係の争点にしてしまった。

(日韓基本条約:昭和40年(1965)6月、日韓国交樹立。

日本が朝鮮半島に残したインフラ・資産・権利を放棄し、当時の韓国の国家予算の2年以上の資金を提供することで、日本の韓国に対する経済協力、日本の対韓請求権と韓国の対日請求権という両国間の請求権の完全かつ最終的な解決、それらに基づく日韓関係正常化などが取り決められた)。

慰安婦問題も同じ背景があった。

私には慰安費問題では大きな恨みがある。正しく処理すれば問題無いのに、これを韓国側は処理せず、政治問題にしてしまった。1991年、私が担当した「韓国新幹線電車ビジネス」はこれにより韓国世論に押し切られて「日本の新幹線は採用しない」とねじ曲げられてしまった。

何回も実施された国際入札において価格面でも、納期面でももちろん品質面でも常に一番の評価点を得ていたのに。(韓国新幹線を受注していれば、私がその後、長い間インドネシアビジネスに関わる事もなかったが、インドネシアでの実績は私にとっては大きな転機となった—これが 5 月 6 日放送の「鉄道伝説」(マレーシアでブルートレインが復活)につながっていると思うと人生の不思議を感じる。

明治 43 年(1910)に発効した日韓併合条約(韓国併合)など日本側には反省すべき、謝罪すべき問題が沢山あるが、ユン大統領は「反日世論を政治利用せず、日本と未来の話をしたい」という姿勢を国民に示し続けている。

ソウルで 5 月 7 日首脳会談後、岸田首相(65)は語った「私自身、当時厳しい環境の元で多数の方々が大変苦しい、悲しい思いをされた事に心が痛む思いだ」。これに対し韓国の新聞の一部は「岸田は手ぶらでやってきた」と厳しい。

50 年前、私が初めて韓国を訪問したときに、韓国の農村地帯では家の屋根は瓦ではなく藁葺きだった。食堂のご飯も麦飯だった。しかし、今の韓国は日本と肩を並べるくらい豊になった。もう日本をひがむのは時代遅れの世論だと思う。

これからユン大統領の下で、シャトル外交が広がり、日韓が協力して明るい交流が一層盛んになることを願っている。(5 月 18 日記す)

ユン大統領は G7 広島サミットに招待されて 5 月 19 日に来日された。3 月に訪日されてから 2 度目の訪日となった。この時、温かい心を持って在日韓国人被爆者を訪問された。(この話は 6 月号に記します)

完



笑楽日塾5月 Zoomオンライン塾会報告

今期日 2023年5月11日 19時30分～20時25分

会場 各自自宅

出席者 内田、高木、先崎、吉田、新井(邦)、新井齊、八木、星、南、荒井

欠席者 菊地、清藤、荒川

1. 旭町公民館へ利用団体登録更新の報告。

毎年公民館から更新手続きの書類が来て、会員名簿を添付して4月27日提出しました。

2. 連休中の出来事報告

(1) 新井 齊さんから SL と益子焼のお話

5月4日家族で SL に乗って益子焼の陶器市へ出かけました。

益子 SL 笑旅行
5月3日(水) 蕨8:22発～京浜東北線～浦和駅8:44発～湘南新宿ライン宇都宮行き～
小山9:45発～水戸線(下館行き)～下館10:35発 SL もおか・茂木行～益子11:32着
第107回春の益子陶器市は、我が家の春の恒例行事の一つです。
昨年に引き続き2年連続で小旅行を楽しみました。数えて春の陶器市は、15回目の訪れです。
昨年は、SLもおかに乗車できませんでしたが、今年は運よく下館から益子まで、SL旅を満喫してきました。田植えには未だ早いようで、準備段階ですが、既に水路には水面が輝いていました。少し残念は、鯉が見えなかった事です。



(2)南 英倫さんから報告 鉄道写真(サフィール踊り子(E261系))

何年か前から午前中お洒落な列車が蕨を南下するのを目撃。頑張って先頭車の名前を読んだらサフィール踊り子で驚きました。サファイアのフランス語だとか・・・



(3)南 英倫さんから ひたち海浜公園へ行かれたお話

3年前の秋、袋田の滝の帰りにひたち海浜公園に寄りましたが、愛用の EOS7D を忘れ スマホでしか撮影できませんでした。4月20日に重いカメラを担いでリベンジ。前は赤いコキア、今回はネモフィラ。

今回はバスツアーに参加しました。南浦和西口 ⇒ 大宮東口 ⇒ 上尾西口 ⇒ 桶川西口で順にお客を乗せ、圏央道に乗り常磐道を通る珍しいルートです。なんと圏央道の常総IC でいったん降りてインタ協の苺農園に寄ってイチゴ狩り！ 美味しくてバクバク食べてご機嫌でした。最初の10個くらいまでは数えていたのですがイチゴ探しに没頭するありさま。天井から吊されたイチゴ棚がちょうどいい高さに降りてきて簡単に摘み取れます。

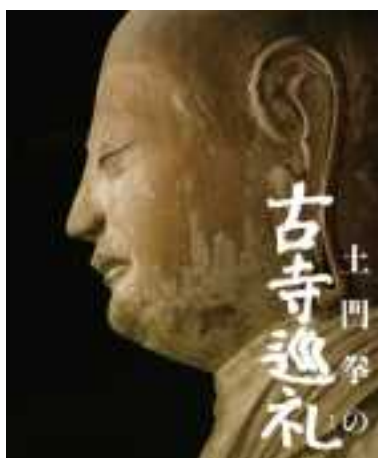


さすがにゴキアもたいりには驚けません



(4) 八木守さんから「古寺巡礼」展示会(恵比寿東京都写真美術館)の報告

仏教に造詣が深い八木さんが「古寺巡礼」展示会へ行っただけの感動の様子が紹介されました。(重量感のある巨大モノクロ仏像写真は圧巻でした！)



(5) 吉田喜義さんから救急車で運ばれたお話

5月6日(土)町会の防災訓練の準備中に耐えられない痛みが発生。救急車を呼んで戸田中央病院へ。

痛み止め注射、スキャン撮影、レントゲン撮影などの検査。原因は尿路結石。その日タクシーで帰宅。星さんも1回、荒井さんは3回経験。

(6) 高木さんから石巻へゴルフの手伝いに行ったお話

石巻でキッズゴルフ大会があって、手伝った。伝説の名人・青木功プロに会った。爪切りを差し上げたら、とても喜んでおられた。

若手のプロ・金谷拓実も来ていた。仲間がメシを誘ったが、勝手な行動をしていた。

*塾生の皆様、連休中にいろいろな事がありました。

完



「シニアの風」

(順番制で行います。)

2023年6月「シニアの風」投稿は星 広行さんですので宜しくお願い致します)

「新型コロナウイルスと笑顔復活」

荒井貞夫

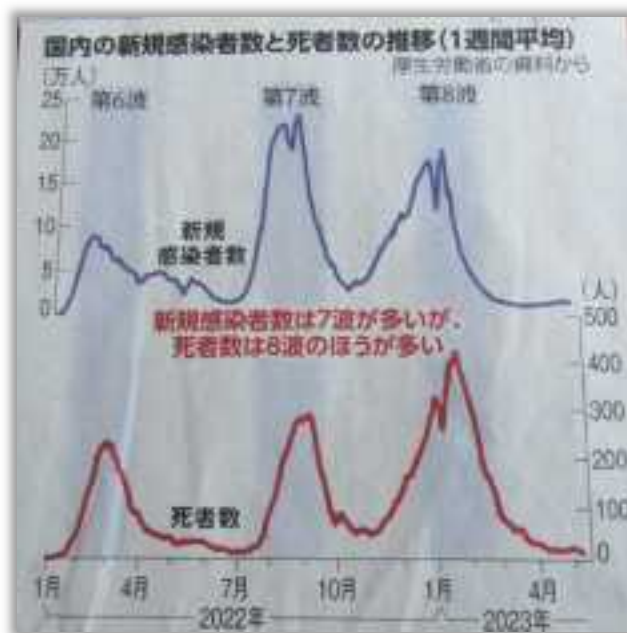
5月16日実家の近くの板倉ゴルフ場へ。3組12人でプレーした。チェックインする時にこれまであった体温検知器も、アルコール消毒も撤去されていた。ランチで食堂へ行くとアクリル板の仕切りも取り外されていた。近所の居酒屋も以前よりもお客の数が多いようだ。5月に入って世の中の雰囲気が変わってきたと実感した。

5月8日新型コロナウイルスの感染法上の位置づけがインフルエンザと同じ5類に移行した。感染対策や治療は個人の判断に委ねる「新たな日常」が始まった。飲食業界ではホットしている事だろう。

笑楽日塾では3年前の頃は日本人の感染者が意外に少なかった時代に「Factor X」が絡んでいると真面目な議論をした。

「アレは中国の仕業だ。中国はその怖さを知っていたから、大規模な緊急病棟を1週間で設置して防疫に乗り出したんだ」というアメリカの一部の主張を私も信じていた時があった。

中国は厳しい封じ込めをやってしのいできたが、3選を果たしたシーは今年になって、市民からの反発を気にして、あれほど厳しかった外出制限を撤廃に追い込まれた。



WHOは5月5日「緊急事態宣言」を解除した。

14世紀に流行したペスト(黒死病)では当時のヨーロッパの人口8千万人の6割が死亡した。また1918年スペイン風邪では世界中で数千万人が亡くなったと言われている。一方、新型コロナは、世界の感染者は7.5億人、死者は690万人。

私がインドネシアで暮らしていた時、2002年～3年に香港を中心に「重症性呼吸器症候群(SARS)」が発生した。その時、世界で800人が死亡した。インドネシアの空港では検疫が厳しかったのを覚えている。

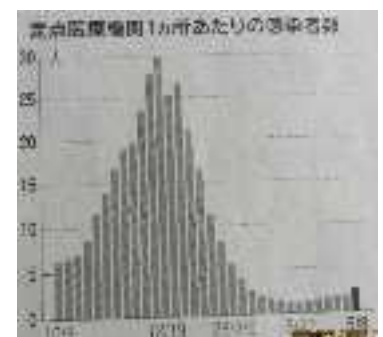
振り返ってみると不自由な日常生活だった。コロナは収束していないが世の中は明るくなってきた。それでも子ども達は用心している。5月22日(月)、小学校の校門近くで下校時の児童を見ていると、マスクをしていない子は2～3%ぐらい。まだ警戒している。運動場ではマスクを外している子が多かった(5月22日・中央小学校・放課後子ども教室)。



私は5月から会議でも学校でもマスクはしていない。電車に乗るときは他人の目が気になるのでマスクしている。ワクチンは打たない方が体に良いという知人が近くにいるが、私と愚妻は半年ぶりに、5月27日に6回目の注射をした。

マスク無しで会うときの効用は、相手の笑顔が見えることだ。言葉も良いが、笑顔の表情から多くの情報を読み取ることが出来る。「目は口ほどにモノを言い」というが目だけでなく顔全体で表情が分かり、言葉を発しなくてもコミュニケーションが取れる。それが笑顔だ。

コロナで失われたものを取り戻す。答えは「笑顔」ではないでしょうか。



いろいろな事があった新型コロナは「季節性がなくこれからも何度か流行する」と専門家は言う。私も今まで罹らなかったからと安心せず、毎日の体調をみながら老後を楽しんでいきたい。

さて、十牛図も残り1枚です。
今回は第9段階・本源に還る「返本還源(へんぼんかんげん／へんぼんげん)」です。



この絵には、牛も牧人もなくなった絵で、只々美しい自然が描かれています。でも、この絵は単なる風景を描いたものでしょうか？ この絵の大自然の「教え」は、「特別な人になれ」とは教えていないのかと思います。風が吹けば花びらは散ります。でも、だからといって木が枯れるわけではありません。花にこだわるより、根をしっかりと張ることのほうが大切なのだとも教えています。

禅は、より良い気持ちを持つための技術とも言えます。その意味で、悟って何か特別なものになろうと言うのは、おかしなことです。流れ行く川、咲き乱れる花々をじっくり観察することです。どこからか、無言の「教え」が聞こえてくる気がしてきます。

「みなそれぞれが、素直なままでいるように、ありのままの自分でいるように。大自然の中に溶け込み、大自然とともに生きていきなさい」と……そんな風に感じとれます。

そして、安土桃山時代、わが国の「茶道」を大成した茶人と言えば、千利休その人であり、その精神や教えは、令和の現代にまで脈々と受け継がれ続いています。

利休は、まさしく「茶の本質」を尋ね探し、「茶の心」を追い求め、「茶」と「自己」との一如なる境地に達せんとした茶聖であり、やがては「茶の本源」を究めて「わび茶」なる「自然たる姿」に還っての「茶道」を完成させた人物。この「利休の茶」の道程は、それこそ『十牛図』における第1図「尋牛」から「返本還源」に至る道程と酷似一致しているのではないかと……勝手に考えています。

次回は最終段、第10段階 入麁垂手(町に出て生活する)をお送りします。

～続く～